2013年（平成25年）
7月10日
Elderly Press Newspaper
エルダリープレス ニュースペーパー
（毎週水曜日発行）
第262号

週刊 高齢者住宅新聞

（株）高齢者住宅新聞社　〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15　TEL.03-3543-6852（編集部）
http://koureisha-jutaku.com　発行人　西岡一紀　年間購読料 21,000円（送料込・税込）

介護経験を機にデイ開設
ヘルパーからも好評

エクシア
柴田大輔社長

エクシア（東京都八王子市）は、昨年9月1日にリハビリ型デイサービス「りんとえむ めじろ台」（東京都八王子市）を開設した。柴田大輔社長は介護業界に参入したきっかけについて「祖母の介護」を挙げた。

柴田社長の祖母は医師から筋力低下を指摘され、リハビリ型のデイサービスを探したが、ことごとく利用を断られ、その内に車椅子生活となってしまった。その後、祖母は寝たきりで胃ろうとなり、亡くなってしまったという。

その経験を機に、柴田社長は身体状況が悪い高齢者でも通うことができ、自立した生活を可能な限り続けるためのサポートを提供する施設を運営したいと考えるようになった。開設場所は祖母が生活していた八王子市と心に決めていた。

りんとえむは「凛と笑む」が由来で、高齢者が心も身体も健康な状態で清々しく笑顔になれるようにとの願いを込めて名付けられた。

施設で使用するトレーニングマシンにはサロンオールディーズ（東京都中央区）が販売するリハトレーナーを採用。リハトレーナーは東京都老人総合研究所が高齢者向けに考案した運動理論に基づいたプログラムを内蔵したマシン。トレーニングの効果が目で見て分かり、身体能力などもデータ化して見られる点が導入の決め手になったという。

また、トレーニングや負荷の履歴を見ることもでき、「利用者は履歴を見ることで自分への自信を持つことができ、トレーニングのモチベーション維持にも繋がっている」（柴田社長）という。負荷に対していかにスムーズにトレーニングを行えたかも分かるため、ゲーム感覚で張り合いが持てるという。

利用対象者は要支援1から要介護5。現在約40人が利用している。左半身に麻痺を持つ要介護5の利用者もサポートを受けながら立ち座りの練習やマシンを使ったトレーニングに励んでいる。ヘルパーからは「入浴介助時などの立ち座りが良くなった」という声が届いており、柴田社長も「本人の残存機能を活かし、介護者の負担を少しでも減らすことができていると思う」と手応えを感じている。

最初は全く喋らなかった利用者が日増しに饒舌になるなど、施設に通うことを楽しみにしている利用者も多数いるという。柴田社長は「市内全域のケアマネに施設の存在を知ってもらいたい」としている。

既に八王子市内で2店舗目の開設も決まりつつあり、今後は町田市・日野市などからも利用者を募っていく予定だ。

柴田社長は「八王子市は特に高齢化が進んでいる地域とされており、地域の需要に合わせて更なる店舗拡大なども考えていきたい」と意気込みを述べた。

▶リハトレーナーを導入

◀りんとえむ めじろ台の外観